

平成 24 年度

千葉大学先進科学プログラム入学者選考課題

課題 II-A 解答例

II-A 解答例

問1 (1) 微分すると

$$\begin{aligned}\vec{v}_A &= (-l\omega \sin \omega t, l\omega \cos \omega t) \\ \vec{a}_A &= (-l\omega^2 \cos \omega t, -l\omega^2 \sin \omega t) = -\omega^2 \vec{r}_A\end{aligned}$$

(2) 重心から見て $\vec{v}_B = -\vec{v}_A$ であるから

$$\frac{1}{2}m|\vec{v}_A|^2 + \frac{1}{2}m|\vec{v}_B|^2 = m|\vec{v}_A|^2 = m\{(-l\omega \sin \omega t)^2 + (l\omega \cos \omega t)^2\} = m\ell^2\omega^2$$

(3) 重心の速度を (1) に加える。加速度は (1) と変わらない。

$$\text{小球 A の速度} = (V_x - l\omega \sin \omega t, V_y + l\omega \cos \omega t)$$

$$\text{小球 A の加速度} = (-l\omega^2 \cos \omega t, -l\omega^2 \sin \omega t)$$

問2 (1) $\vec{v}_A = \vec{V} + \frac{1}{2}\vec{v}$, $\vec{v}_B = \vec{V} - \frac{1}{2}\vec{v}$ である。

(2) 上式を題意の式に代入して整理すれば

$$\begin{aligned}T &= \frac{m}{2} (|\vec{v}_A|^2 + |\vec{v}_B|^2) \\ &= \frac{m}{2} \left(\left| \vec{V} + \frac{1}{2}\vec{v} \right|^2 + \left| \vec{V} - \frac{1}{2}\vec{v} \right|^2 \right) \\ &= \dots \text{計算略} \dots \\ &= m \left| \vec{V} \right|^2 + \frac{m}{4} |\vec{v}|^2\end{aligned}$$

よって $M = 2m$, $\mu = m/2$ である。

(3) $|\vec{v}|^2 = |\vec{v}_A - \vec{v}_B|^2 = \{\omega(2\ell)\}^2 = 4\omega^2\ell^2$. (B から見れば, A は, 半径 2ℓ , 角速度 ω で回転している。)

問3 (1) 初速度を与えた瞬間において, B の初速度は 0, A の初速度は y 軸正方向に v_0 だから, 重心は y 軸正方向に速度 $v_0/2$ で運動する。それ以後 外力は働かないから, この系の重心は y 軸正方向に 速度 $v = v_0/2$ で等速直線運動する。すなわち $(X, Y) = (0, v_0 t/2)$ 。

(2) 重心から見ると, A は速度 $v_0/2$ で半径 ℓ の回転運動をしているから, 角速度は $\omega = v_0/(2\ell)$ である。

(3) $(x_A, y_A) = (\ell \cos \omega t, v_0 t/2 + \ell \sin \omega t)$ 。

問4 (1) x 軸方向には外力は働かないから, この棒の重心は, 常に z 軸上にある。小球 A の座標を (x_A, z_A) , 小球 B の座標を (x_B, z_B) とすれば,

$$x_A = \ell \sin \theta, \quad z_A = 2\ell \cos \theta$$

$$x_B = -\ell \sin \theta, \quad z_B = 0$$

である。

(2) z 軸上を落下運動する。

(3) (1) の結果より θ を消去して、軌道の方程式

$$x_A^2 + \frac{z_A^2}{4} = \ell^2$$

を得る。これは、中心が座標軸の原点、短軸半径 ℓ 、長軸半径 2ℓ の楕円である。この楕円の第 1 象限の部分が小球 A の軌跡である。

(4) 位置エネルギーは $2mgl \cos \theta$ 。

(5) 運動エネルギーは、小球 A と小球 B の寄与を加えて、

$$\frac{1}{2}m\left(\frac{dx_A}{dt}\right)^2 + \frac{1}{2}m\left(\frac{dz_A}{dt}\right)^2 + \frac{1}{2}m\left(-\frac{dx_A}{dt}\right)^2$$

これに

$$\frac{dx_A}{dt} = \ell \cos \theta \frac{d\theta}{dt}, \quad \frac{dz_A}{dt} = -2\ell \sin \theta \frac{d\theta}{dt}$$

を代入して整理すれば、運動エネルギーは

$$m\ell^2(1 + \sin^2 \theta)\left(\frac{d\theta}{dt}\right)^2$$

となる。

(6) エネルギー保存則より

$$2mgl = 2mgl \cos \theta + m\ell^2(1 + \sin^2 \theta)\left(\frac{d\theta}{dt}\right)^2$$

これより

$$\frac{d\theta}{dt} = \sqrt{\frac{2g}{\ell} \frac{1 - \cos \theta}{1 + \sin^2 \theta}}$$

となる。

(7) 上式に $\theta = \pi/2$ を代入すれば、

$$\frac{d\theta}{dt} = \sqrt{g/\ell}$$

であり、また速度の式を用いて

$$\frac{dz_A}{dt} = -2\ell \frac{d\theta}{dt} \sin \theta = -2\sqrt{g\ell}$$

となる。すなわち、 z 軸負方向に $2\sqrt{g\ell}$ の速さで衝突する。

(8) 運動の時間反転対称性により、小球 A はもとの位置まで上昇する。